

定例記者会見発言録

日 時：令和元年5月8日（水）14：00～14：45
場 所：伊達市役所本庁舎東棟4階 401会議室・402会議室
出 席：市長、副市長、市長直轄理事、財務部長、市民生活部長、産業部長、
建設部長、教育部長、こども部長
報道機関：毎日新聞社、時事通信社、福島民報社、福島民友新聞社、NHK福島放送局

市 長：「令和」最初の記者会見にあたってのあいさつの後、下記の内容を別紙資料により説明。

- 資料1 伊達市ファミリーサポートセンター事業
- 資料2 危険なブロック塀等の撤去への補助制度を創設
- 資料3 住宅用蓄電池システムの設置費用への補助制度を拡充
- 資料4 広告付き総合案内板と情報モニターを市役所内に設置
- 資料5 吹奏楽きらめき事業 第8回合同演奏会の開催
- 資料6 チャレンジデー2019への参加
- 資料7 伊達な酒づくりプロジェクト 酒米田植え体験イベントの開催
- 資料8 第10回モノ作りびとフェア in つきだて花工房

《市長冒頭あいさつ》-----

「令和」最初の記者会見にあたり、はじめに一言お話しさせていただきます。

伊達市は、平成18年1月1日に5町が合併し誕生した新しい市であります。市民の皆さんの協力、関係機関・団体のご支援により、「一つの伊達市」を目指し、平成と共に歩みを進め、今日を迎えました。平成23年3月11日の東日本大震災と原発事故では、甚大な被害を受けましたが、国、県、関係機関の支援と市民の皆様の努力により、着実に復旧・復興がなされてきたところです。一方で、課題も浮き彫りになってきております。近年の首都圏への人口一極集中、地方における人口減少と少子高齢化などによりまして、地域の活力が低下し、大きな問題となっています。元号が「平成」から「令和」に変わり、復旧・復興から地方創生にスピード感をもって取り組む必要があると考えております。伊達市としては、地方創生、地域活性化の鍵は、若い年代の地元定着と外からの移住であると考えております。それにより、あらゆる世代に活力が生まれてくると考えております。そのための施策として、働く場の確保のための「地域産業の振興」、元気で強い子どもを育む「子育て支援、教育の充実」、健康で生きがいある人生を送れる「健康づくり」の三本を施策の柱として、積極的に展開してまいりたいと考えております。新しい元号「令和」には、美しく柔らかい響きがあり、花咲き誇る場所で人が和み集う様が連想され、自然豊かで人と人との絆が残る地域が見直される時代になると考えております。まさに「桃源郷」を思わせ、地域の絆が強い伊達市が大きく飛躍できる時代だと思っております。伊達市が目指す「誇れるまち、選ばれるまち、選ばれ続けるまち」の実現に向け、市民の皆さんとの協働により市政運営を進めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

「ファミリーサポート事業」関連

記者：伊達市以外に、県内で同様の事業を行っている自治体はありますか。この事業の中で、病気の児童も預かってもらえるのでしょうか。また、預かっている時間に子どもの食費や治療費が発生した時はどうなるのでしょうか。

市長：治療費が発生した場合は、ファミリーサポートセンターが加入する保険で対応します。

こども部長：食費については、会員同士の話し合いで対応していただくようになります。同様の事業は、県内自治体の半数が実施しており、市では伊達市は後発になります。

記者：謝礼については、1時間当たりの額などは決まっているのでしょうか。

市長：目安として、30分あたり300円と示しています。

記者：預かる場所は、依頼した人の家なのか、預かってくれる人の家なのか、どこで預かってくれるのでしょうか。

市長：基本、預かってくれる人の家になります。「任せて会員」の条件として、自宅で子どもを預かれる方としております。

記者：昨年、福島市の認可外保育園で1歳の男児が亡くなったということがありました。0歳児から預かれることですが、安全面にはどうなのでしょう。

市長：「任せて会員」になる方には、4日間の講習を受けてもらうことが条件としております。また、万が一のためにファミリーサポートセンターで保険に加入しております。

こども部長：講習会については、合計24時間の講習を受けていただくことになります。講師のカリキュラムとして主な内容は、安全について、子どもの遊びについて、小児看護の基礎知識、子どもの体や心の発達などになります。

記者：放課後の預かりですと、学童保育などをやっている小学校もありますが、どうしてこの事業を新たに始めようと思ったのでしょうか。

市長：継続的に預ける場所だけでなく、一時的に保育してもらえよう場が必要だという要望があったため、この事業をはじめたものです。

記者：利用依頼から支援を受けるまでのスピード感はどの程度なのか。また、子育て支援の時間についての条件はあるのでしょうか。

こども部長：「お願い会員」と「任せて会員」のマッチングができ、会員同士を引き合わせて合意できれば、すぐにできるようになります。条件が合わなければ若干時間がかかるようになると思います。

記者：マッチングが成立して一度お願いした場合、次回依頼するときもセンターが間に入るのでしょうか。

こども部長：その場合、会員同士でやり取りして構いません。ただし、支援が済んだ後にセンターに報告し、謝金の確認をするようになります。

記者：宿泊などは想定しているのでしょうか。

こども部長：宿泊は想定しておりません。

記者：急用が入った時に呼べたりもするのか。

こども部長：あくまで会員同士のマッチングが済んでおり、連絡して都合が合えば対応できるということになります。

記者：この制度をつくるに当たって、子育て世代からの要望はあったのか。また、利用や登録者数はどの程度想定しているのか。感触はあるのか。

こども部長：ファミリーサポートセンターの要望ということではありませんが、厚生労働省でも要綱をつくって全国的に展開しておりますので、それに本市も合わせて行っているものです。今年度の目標として、「お願い会員」と「任せて会員」合わせて50人ほどを想定しています。

記者：預かる側のニーズは、どの程度あるのでしょうか。

こども部長：昨日から会員募集を開始しましたが、預かる側の「任せて会員」を希望する方が2人いました。伊達市には元気な高齢者が多いので、もしかすると「お願い会員」より「任せて会員」を希望する方が多いのではないかと思います。

記者：もし分かればですが、県内で進んでいる自治体の利用状況は。

こども部長：福島市ですと、「お願い会員」が約1,000人、「任せて会員」が約300人で合わせて1,300人という状況です。

記者：「任せて会員」の要件で、自宅等で預かることができる方とあります。自宅以外の場所は想定されていますか。

こども部長：可能であれば、公共施設など利用できる場所であれば構いません。

データ提供関連

記者：昨日、データ提供問題の調査委員会があったようだが、複数回開催された中、医大でも論文修正などがあったが、進捗具合はどのような状況なのでしょうか。

市長：各委員に内容を調べて頂いております。進捗状況については、いまの段階で申し上げることはできませんし、いつの時点で最終結果を報告できるかについてもお伝えすることはできません。出来るだけ早く状況を報告できるように、委員の皆さんにお願いしたいと思います。

記者：いつまでという目標はありますか。

市長：慎重に扱わなければならない問題でもありますし、聞き取り調査もあります。そのため、いつまでという目標は立てておりません。

危険なブロック塀等の撤去への補助関連

記者：危険性を判断するのは誰になりますか。

建設部長：申請後、建設部の職員が現地を確認に行きます。例えばひび割れがあるとか、傾きがあるとかの調査をしたいと考えております。

記者：自分で撤去した場合はどうなりますか。

建設部長：申請があり、調査をした後に、それが危険なブロック塀として補助の対象となるのかの判断をして、それから撤去してもらうこととなります。自分で撤去してしまった場合は、自分の力でできたということですので補助の対象となりません。業者を頼んで費用が掛かったものが対象となります。

「住宅用蓄電池システムの設置費用への補助制度を拡充」関連

記者：先着順で予算の範囲とあるが、予算はどのくらいなのか。

市民生活部長：蓄電池システムは、1人当たり8万円を10件想定し80万円。既存の太陽光発電システムの設置補助については、70件を想定し560万円を予算計上しております。

チャレンジデー2019への参加関連

記者：県内では伊達市と南会津町だけの参加となるが、他自治体の参加についてはどうお考えでしょうか。

市長：実際にやってみて、運動するきっかけになるということで、本市としては素晴らしい取り組みを続けてきたと思っております。他の自治体にも、何かの機会に紹介し、できるだけ多くの自治体に参加していただきたいと考えております。

記者：15分以上の運動ということですが、買い物ついでの散歩で、近くの総合支所まで歩いて行って登録するということでも良いのでしょうか。

市長：散歩が目的ということであれば対象となります。

記者：運動していても投函しない方もいると思うので、実際の参加率はもっとあるのではないのでしょうか。

市長：投函しやすい方法、投函しやすい場所を増やすとか、インターネットによる投函などを考えていきたいと思っております。